



Title	井戸さんと西成労働福祉センターの関わり
Author(s)	海老, 一郎
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 12-13
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100721">https://hdl.handle.net/11094/100721</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 井戸さんと西成労働福祉センターの関わり

海老一郎

元公益財団法人西成労働福祉センター

「いやあ～、嬉しいわよ」と蔓延の笑顔で見学に連れて来られた学生さんたちと写真を撮る姿をいつまでも忘れることができません。

私と井戸さんの出会いは、逢坂先生たちと2006年にNPOヘルスサポート大阪（HESO）を立ち上げられた時からでした。その足跡は今も地域の日雇労働者の皆さんに読まれている西成労働福祉センターの広報誌『センターだより』に残っています。

No.376号（2006年9月15日発行）は、「初の飯場健診実施」の特集でした。建設作業員宿舎（飯場）が多い大正区にHESOの活動として検診車を持ち込んでもらい、健診を実施しました。

私たち職員も事業所を訪問し受診を呼びかけました。センターとしても初めての試みであり、

②高齢者特別清掃従事者より高血圧の人が多い。

②結核の既往症後や再度レントゲン受診が求められる要注意者がいた。

③病院の受診が必要でも保険証がなくて診てもらえない。ということがわかりました。

No.434（2011年7月15日発行）では、『盆と正月には無料の健診を！釜ヶ崎から結核をなくそう！』のテーマに「結核という病気についてのあらまし」と「釜ヶ崎の結核の現状」そして「どうしたら結核をなくせるか」また「かからぬいためにはどうしたらよいか」ということをわかりやすく語っていただきました。

No.474（2014年11月15日発行）の『結核をなくそう』の特集では、大阪公衆衛生協会に移られましたが、釜ヶ崎に結核が多い理由を「感染の連鎖」という言葉を使い、「釜ヶ崎は狭い空間が多いため、大勢の人が集まっている場所に患者がいると、咳やくしゃみで感染する。結核を少しでも早く発見するために、健診を半年に1回は受けてほしい」と強く訴えています。

そしてNo.500（2017年1月1日発行）の500号記念のメッセージで、こんなことを話されています。「『HESO』の活動のなかで、一番印象に残っているのはセンターの待合室をお借りして実施した肺の年齢を測る検査（スパイロメーター使用）に多くの方が参加してくださったことです。地域にとって結核をはじめとする健康問題は重要な課題であると思います。」と述べられていました。

一方で井戸さんにはセンターにおいて、日雇労働者を雇用する事業所に対しても、「労働者の健康管理」という視点からセンターの事業に協力してもらいました。

2019年11月26日に開催した事業所座談会に講師として来ていただき、業者の方々に「宿舎で結核が発生しないように予防する方法」や「労働者が結核になったらどうすればよいか」などの話をされました。

この他、日常的な活動として井戸さんは、公衆衛生を学ぶ方々に地域の生の実態を見てもらおうと多くの人たちへの研修に携わっていました。そんな井戸さんから「海老さん、今度センターへ見学さ

せてもらいに行くからね」と声をかけてもらった時、私は、これまでのセンターの事業が井戸さんご自身の結核対策への思いとつながっていると思いました。

そして、私もセンターを退職後、大学で公衆衛生を学ぶ方たちに「釜ヶ崎の日雇労働の失業と貧困が健康に及ぼす影響」について井戸さんからいただいたたくさんの宝物を伝えていく活動を続けていきたいと思います。

# センターだより

第376号  
2006年9月15日発行  
(財)西成労働福祉センター  
大阪市西成区萩之茶屋 1-3-44  
・ 06-6641-0131

## 初の 飯場健診 実施



**しうぎあいこうしや  
将棋愛好者のつどい**

日時：10月23日(月)  
12:00～

場所：新今宮文庫

内容：クラス別  
トーナメント戦

指導：森 信雄 六段

受付：10/10(火)より  
福祉係窓口にて受付。  
先着50名

技能講習事業の科目と日程 受付9時～10時 選考・説明10時～11時

講習科目	受付選考日	入数	講習日程
玉掛 3日間	9月19日(火)	30人	10月2日(月)～4日(水)
けん引自動車運転免許 大型免許所持者は対象外 5日間	9月21日(木)	10人 10人	1組10月2日(月)～29日(日) 2組11月6日(月)～12月3日(日)
車両系(整地ほか用) 大特免許所持者は対象外 5日間	9月26日(火)	25人	10月11日(水)～15日(日)
締固め用機械 格別教育・2日間	9月28日(木)	15人	10月10日(火)～11日(水)
クレーン(荷重5t未満)	10月3日(火)	15人	10月20日(金)～21日(土)

・画期的な試みでした

8月31日(木)、9月1日(金)、9月2日(土)の三日間、大正区の三軒家地区に存在する宿舎労働者を対象に健診が実施されました。残念ながら仕事が忙しく予定した健診者数を下回る29名の受診となりましたが、実施されたこと自体は画期的なことでした。

・きっかけ

釜ヶ崎(あいりん)地区の日雇労働者の結核罹患率は現在もなお桁違いで全国一を維持し続けています。カンボジアについて世界二位との不名誉な数字すらあるそうです。そこで数年前から高齢者清掃事業の登録労働者への健診を行ってきたNPOヘルスサポート大阪(HESO)が次に注目したのは大阪市内の宿舎に居住する労働者でした。同時に、数年前より元請企業から派遣労働者の健康診断書を求められ高額の健診費を負担してきた事業所にとってもHESOの申し出は渡りに船でした。HESOの活動資金は今年度文部科学省より支給される科学研究費によっており、事業主の負担が少額ですむ利点もありました。

・結果は・・・

実施したHESOの医師団からは、①は高齢者清掃に従事する高齢労働者よりも高血圧の労働者が多い。②は結核の既往症後や再度のレントゲン受診が求められる要注意労働者がいたこと。③病院で診てもらうにしても健康保険証が無く受診できることなどが明らかになったと報告されています。

・これからも

この結果を基にHESOの医師団はますます宿舎労働者への健診の必要性を痛感し、来年度以降も引き続き科学研究費を受給できる準備をはじめたと聞いています。……………

相対的に高齢化が進む宿舎労働者の健康管理は、予防医療の観点からも緊急の課題です。体調に少しでも不安を感じた方はセンター周辺で毎週火曜日に実施されているC.R.車(レントゲン写真をその場で読み取ることができる)による健診を受診してください。




出典：財団法人西成労働福祉センター、センターだより、第376号、2006年9月

13